

.....編集後記.....

◆今年の春は天候不順で桜の花も長々と咲き、花見を楽しむことができましたが、皆様はいかがでしたでしょうか。

◆さて、巻頭エッセイは加藤碩一氏と交代して新しく編集委員長に就任した有田正史が書かせてもらいました。ご批判ください。

◆口絵はエネルギー確保と環境問題に関連して地殻熱部の高橋正明氏に、また、国外情報として、最近、ロシアの大地を地質調査で駆け巡っている鉱物資源部の佐藤興平氏にお願いしました。

◆新しい特集「地質年代測定法の進歩と応用Ⅰ」は1995年に第9回地質調査所東京講演会で発表されたものです。今回は地殻化学部の富樫茂子氏に様々な年代測定法の紹介および地質学への応用を、同部の松本哲一氏に若い火山岩の年代測定の問題点について原稿をお願いしました。地球の歴史に正しい時間を入れることは重要な研究ですが、測定装置のあるところは少ないと思われるので、これを機に共同研究等が提起できれば幸いです。

◆「放射性廃棄物処分と地質環境Ⅱ」は3月号の続編として掲載したものです。今回は環境地質部の塚本 斉氏と国際協力室の古宇田亮一氏に原稿をお願いしました。放射性廃棄物の処分の問題は人類の将来にとって大変重要な課題であり、安全評価のシナリオとそれに関連する地下構造の可視化についての記述は興味深いものがあり、是非ご熟読下さい。

◆鉱物資源部の佐藤興平氏には個別重要国際共同

研究の成果の一部として、外国人研究者としては未踏の地であったロシアのシホテリアン北端の金鉱床について興味深い紹介していただきました。

◆地殻物理部の中島善人氏の地球深部探査構想は地球深部に対する地質屋の夢でしょう。ご一読下さい。

◆前編集長の加藤碩一氏がインドのアルン・バパット氏の地震災害軽減策の翻訳を寄稿されました。地震の研究者が研究のみにとどまらず、災害軽減に思いを廻らす姿勢に感銘を受けました。

◆地殻物理部の大久保泰邦氏からはタイ国の開発と環境問題を理解する上で貴重な情報を寄せていただきました。

◆標本館の奥山(楠瀬)康子氏から標本館の活動状況、海洋地質部の倉本真一氏から新書紹介の原稿をいただきました。

◆地質ニュースの使命は最新の地球科学情報を地質調査所の調査・研究を軸としてわかりやすく紹介することにあります。しかしながら、地質学の基本である野外地質学を取り巻く情勢を考えますと、低学年層向けの「地質学のすすめ」的な啓蒙記事をもっと載せ、後継者の育成および地質学と社会の連携を強めるための一助となるべく努力する必要もあるのではないかと思います。これを実現するためには、先人の経験と知恵が必要になります。諸先輩からのご寄稿をお待ちしております。

(編集委員長 有田正史)

地質ニュース編集委員会

委員長：有田正史

副委員長：石井武政

幹事：佐藤興平・今井 登・村上文敏・大熊茂雄

顧問：林 暉・石原舜三・大嶋和雄・高橋 博

事務局：総務部業務課広報係(山崎 浩・谷田部信郎)

〒305 つくば市東1-1-3 地質調査所

地質ニュース編集委員会

事務局 Tel. 0298-54-3520

Fax. 0298-54-3504

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ

地質ニュース	第501号	1996年	5月号
	定価	¥770	〒実費
1996年5月1日	発行		
編集	工業技術院地質調査所		
発行人	株式会社 実業公報社		
	代表者 林 光生		
発行所	株式会社 実業公報社		
	東京都千代田区九段北1の7の8		
	Tel. (03)3265-0951(代表) 〒102		
	振替口座 00110-6-32466		
	麹町局私書箱第21号		
印刷	小宮山印刷工業株式会社		

©1996 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンター、八重洲ブックセンター(株)本店およびつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります。品切れの際は店頭で注文してください。